

デンマーク一般事情

澤渡夏代 Brandt
報告者：吉田信子

★はじめに

昨日からみなさんが太陽を連れてきました。みなさんの滞在期間雨も降らないでしょう。私は澤渡夏代 Brandt といいます。日本国籍です。1946年夏、女性が参政権を得た年（代議士になれるようになった年）に生まれたので、夏代と名付けられました。

みなさんは1週間ロスキレ市に滞在するのですが、最初にデンマークと日本の文化の違いを知っておく必要があります。100Vの国から220Vの国に来たのですから、頭も変換しないと正しく理解できないわけです。

ところでなぜロスキレ市になのかと思われ高田もいるでしょう。ロスキレ氏が何かに解くに優れているわけではありません。デンマークでは国として定めたフレームを地方自治体が運用しているので大きな違いはないのですが、コペンハーゲンのような大都市に比べて、ロスキレ市は一般家庭が多い中堅都市といえます。何よりもこの視察旅行の企画を話した時、一緒にやりましょうと言ってくれた市です。1、2時間で駆け抜けるような日本からの視察に対してノーモアジャパニーズと言われる中、私たちの研修は21年目を迎えて歓迎されつづけています

★デンマークってどんな国？

デンマークの（グリーンランド）は日本の九州くらい、人口は560万人で福岡県くらいに相当します。

平均家族人数1.95人で、18歳を成人として、成人になると家を出て独立するケースがほとんどです。デンマークは高齢化（60歳以上人口23.9%）に対応して改革を進めてきました。2007年以降278あったコミューン（県）を98に統合し、医療、生活困窮者対策、特別支援教育についてはレジオン5医療区で行政分担することとしました。国や自治体が責任をもって（公立の運営が多く公務員が多い）、人を育て、しっかりした納税者に

なってもらおうという考え方をしています。

2011年度の幸福度調査で、デンマークは世界一になり

ました。多くの人が自分はしあわせと思っているわけです。デンマークは高い山がなく平らな国なので、みんな同じように太陽を浴びるためなのか、平等感があります。「人」を大事な資源ととらえ、デンマークの子どもは誕生祝いに、「民主主義」をもらおうという考え方がされます。



★民主主義ってどういうこと？

「人」は大事な国の資源と考えるデンマークでは個人が尊重されます。みんな違ってみんないい、競争や管理から生まれるものは何もないということです。日本には、見ざる聞かざる言わざるといことがいいとされることわざがあります。デンマークは逆で、見て、聞いて、話して、参加する、自分が輪の中にいることが重要とされ、幅広い選択肢の中から、自己決定します。個の尊重でバラバラにならないように、幼い時から協同精神 solidarity を養う教育を受けて育ちます。

★デンマーク人の一生(社会保障から)

福祉=welfare=健康で快適生活を含めた幸福 と考えるとき、デンマークでは一人一人平等に一定レベル確保されていると言えます。

まずは望まれて誕生します。ピルも普及しており、産みたいときをコントロールできます。日本のようなできちゃった婚は少なく、シングルマザーもかなりいます。婚姻の有無で不利益をこうむることがないからです。出

産費も無料です。

デンマーク人は、誕生と同時に全員背番号を付与され、どこの病院でもそれまでのカルテが共有できます。男性も育児をします。

保育園、幼稚園は自治体が支援し、3割の自己負担がありますが、小学校から大学までの学費は無料です。18歳以上で、大学教育を受ける人は学生援助金がでます。

失業保険は4年から2年に減らされましたが、それでも日本よりは長いですね。病気になったときは、すべての人がホームドクターを持っているので。そこから専門医や入院を紹介されることとなります。障害があっても障害年金を受給して、18歳以上になれば、家から独立して社会に出ます。

★高福祉・高負担

デンマークの高福祉は高い税金で成り立っています。税金の仕組みは累進課税法で、消費税に当たる付加価値税も25%ですが、税金は skat スキャトと呼ばれ、これはデンマークでは愛する人を呼ぶ時の呼称でもあります。貧富の格差は少なく、「多すぎる人も少ないが、少なすぎる人も少ない」と言えます。全体に生活レベルも高く、権利意識も高いとされています。

★男女共同参画型社会

日本では女性は結婚して幸せにしてもらうという考えがありますが、デンマークでは女性が社会で男性以上に活躍しています。

国や自治体の負担を軽減するためにも、女性を納税者にする政策をとっています。男女ともに、仕事・パートナー・親の3役をこなします。労働時間は週に37時間で金曜日は午後早く帰宅するところがほとんどで、残業もなく、家族で食卓を囲めます。

★不安を感じない高齢者の生活

歳をとってからの生活は、家族構成や財力に関係なく、自治体の判定はありますが、必要な人に必要なとき必要なだけ公的援助が可能な仕組みになっています。退職後は男女ともに第三の人生をエンジョイするための

健康・精神生活・経済が確保されています。

異世代同居のないデンマークでは、歳をとって住む場所を変えていくための住宅対策も多様で、適時に適切な住宅に引っ越しします。デンマークの介護の考え方は、人としての尊厳を守るために、

- ① 人生の継続性
 - ② 残存能力
 - ③ 自己決定の活用
- という3つの要素で見守ることが大切にされます。できることに焦点をおき、できないことを手助けするという自助の援助ということです。これは、残存能力、介助器具の援助で、自立を目指して、その上でできないことは介護者の支援を受けるといことです。高齢者介護のスタッフについては、日本のスタッフはクルクルと動き回り忙しすぎるという印象を持ちます。

デンマークでは移乗介護などでは介護者が重い方を抱きかかえてはいけないことになっています。また、教育下でも給料が支払われ、ケアスタッフの多くが公務員です。

★私たちができること

- ・正しい民意の代表を選ぶ。デンマークでは投票権は神様のプレゼントといわれ、国政選挙の投票率は85%です。
- ・「仕方がない」の口癖を改める。
- ・いつも心に「？」。
- ・まず身近なところから、ほめる、聞く、話す、見守る、参加の姿勢。
- ・「経済が良くなれば生活が良くなる」という考え方から、正反対の「生活が良くなればいい仕事に反映する」という考え方への転換。

★お話を伺って

以上、夏代さんの丁寧な説明について、かいつまんで書き留めさせていただきました。一部私の解釈の部分が入ってしまったところは許してください。このレクチャーは、「デンマークってすごいね」で終わらせないよう、気持ちを新たにしたい時間になり、次へ続く視察に際して大いに役立ちました。